

「安心と安全」つなぐ日常

～コロナ禍の日常～

沖川小学校

沖川小学校は、令和3年度、1名の新1年生を迎えて、全校児童10名で学校生活をスタートしました。

小さな学校ではありますが、小さな学校としての誇りをもって、10名の子どもたち一人一人が、前向きに、元氣いっぱい学校生活を過ごしています。今回は、新型コロナウイルス感染症の拡大が懸念される中、本校で取り組んでいる感染症予防対策の一端を紹介します。

○健康観察シートの活用

朝晩の検温をもとに、子どもだけでなく家族の方々の体調管理にも気を配っています。登校時には、必ず健康観察シートをチェックします。ちょっとした体調の変化にも気を付けることができるように指導しています。



朝は健康観察から始まります

○マスクの着用

飛沫の拡散を防ぐためには、マスクの着用が欠かせません。顔にフィットしたマスクを着用するとともに、マスク自体の清潔を保つように指導しています。

○手洗いと消毒

感染予防にはまず手洗い。学習活動の前後には必ず石鹸で手を洗うという習慣が身に付いています。手洗いだけでなく、手指消毒を併用したウイルスの「ダブルブロック」を目指しています。



手洗いは入念に、ていねいに！

○早期発見・早期対応

沖川小学校の子どもたちは、普段からあまり欠席するようなことはありません。

多少の体調不良であればがんばってしまふこともあるので、子どもの体調に関わることにについては、家庭と十分に連絡を取りながら連携を密にしています。

○換気と身体的距離の確保

教室の出入り口は開放して、自然通気を促しています。少ない人数であっても、一時的に接近しすぎないように、常に相手との距離を確保する指導を継続しています。



どれくらい離ればいいのか？

○黙食の徹底

給食の準備・片付けはもちろん、給食中も会話を慎むようにしています。静かな給食はちよつと寂しい気もしますが、北斗市の給食をじっくり味わいながらよく噛んで食べています。



給食準備中も無言です！

○三密の防止

集団生活をする学校では、無意識のうち三密に寄っていきがちなものですが、常に意識を働かせて三密にならない生活様式や行動を実践しています。

○掲示物や小物の活用

前養護教諭の先生が、工夫を凝らして作成してくださった皆さんの掲示物を校舎内に掲示し「見える化」しています。ちよつとした小物（手作りアイデアグッズ）も感染拡大防止を手助けしてくれています。



くまモンが手洗いをチェック

☆当たり前を続ける！

新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況ではありますが、これまでの生活様式を続けていても予防しきれないという自覚をもって、「新しい生活様式」に取り組んでいます。

この「新しい」が自然に取れて、当たり前の生活様式になることが「安心と安全」につながると考えています。

（沖川小学校 教頭 北谷 朋紀）